

事業所名

児童発達支援センターあさひ学園

支援プログラム

作成日

2024年

10月

1日

法人理念	「夢を志に そして使命に」 行動指針：「信」の確立（信義・信頼・信用）							
支援方針	<p>「自分のことは自分で」を目標に、生活支援を行い基本的な生活習慣を確立し「生活する力」が高められるよう、小集団を通して支援を行う</p> <p>(1) 子どものとの信頼関係を築き、深め、安心感を育むとともに意欲につなげていきます  (2) 子どもの個性や特性を理解すると共に人権を尊重し、社会とつながる力や広げる力を育みます  (3) 身の回りのことを自分で取り組む力や人と関わる力、ことばやコミュニケーション力を伸ばします  (4) ご家族の相談や学習会などを通して、子どもへの理解を深めることができるよう育ちと暮らしを支えます  (5) 医療・保健・教育・福祉などの関係機関と連携をとりながら、地域での育ちを支えます  (6) 地域に住む発達障がいのある子どもやその家族への相談や支援、また、子どもたちが通う園や学校など地域を積極的に支えます</p>							
営業時間	8時	0分	から	17時	0分	まで	送迎実施の有無	あり
	支 援 内 容						実 施 事 項	
本人支援	< ねらい > 健康状態を維持し、改善していく。また生活リズムや生活習慣を形成し、基本的な生活スキルを獲得していく。							
	健康状態の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態のチェックと必要な対応を実施していく。保護者や併行通園先の保育所等に対して口頭で心身の状況を確認していく。</li> <li>利用中に体調の変化がある場合には適切な対処（保護者への連絡・確認・報告もしくは医療機関への受診）を行っていく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の体調確認（連絡帳等）</li> <li>顔色のチェック、検温</li> <li>食欲、排便等の確認</li> <li>身長・体重計測</li> </ul>		
	健康の増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼食を利用し食育を実践していく。</li> <li>口腔内機能・感覚等に配慮しながら摂食時の咀嚼・嚥下・姿勢保持の調整および自助具等に関する支援を行う。また病気の予防や安全への配慮を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>給食、おやつを提供</li> <li>除去食の適用及びアレルギーの確認</li> <li>野菜の栽培や収穫体験などの食育活動</li> <li>あそびや生活の中でうがいや吹くなどの活動を通して口周りの筋力を高めていく</li> </ul>		
	リハビリテーションの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>言語聴覚士による訓練にて咀嚼、嚥下の状態を把握</li> </ul>		
	基本的な生活スキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりを清潔にし、食事・衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的な技能を獲得できるよう支援を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>一対一での対応を実施</li> <li>必要に応じて視覚情報を提示しながら実施</li> <li>身の回りのことへつながる体の動きの体験を実施</li> </ul>		
	構造化等により生活環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で、様々なあそびをとおして学習できるよう環境を整える。また、特性に合わせた環境面（時間・空間など）本人に分かりやすくアプローチしていく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>保育室の環境設定</li> <li>用途に合わせた構造化</li> <li>活動場所や周りの情報を整理し、環境を整える</li> </ul>		
	< ねらい > 姿勢と運動・動作の向上。姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用。保育する感覚の総合的な活用							
	基本的な技能の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化などに関する支援内容を立案し、実践していく。</li> <li>地域の環境資源として体育館や室内競技場などを積極的に活用していく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚統合の運動器具を使用したあそびを実施</li> <li>全身を使った「さくらさくらんぼリズム」</li> <li>雑巾がけや荷物を背負うなど日常生活の中で継続して実施</li> </ul>		
	補助手段の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢の補助や各種の運動・動作が困難な場合があれば、様々な補助用具等の補助手段を活用していく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>補装具や車いすを使用</li> <li>姿勢が安定するように足置きやすべり止めなどの使用</li> </ul>		
	身体の移動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のために、運動に関するプログラムを実施していく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールあそび・サーキット運動、かけっこ等を実施</li> </ul>		
	保有する感覚の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>保有する感覚（視覚・聴覚・触覚等）を十分に活用できるよう、あそびを通して支援する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚あそびを実施</li> <li>スキンシップあそびなどを実施し、人への関心や距離感への支援を実施</li> </ul>		
	感覚の補助及び代行手段の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう、眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>眼鏡使用に慣れるよう支援する</li> <li>補助機器を使用することであそびや生活の楽しさを味わえるよう実施</li> </ul>		
感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚や認知の特性（感覚の過敏鈍麻）を踏まえ、感覚に偏りに対する環境調整等の支援を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なあそびを通して、過敏・鈍麻を調整する</li> <li>様々な感覚を体験できるあそびを実施</li> </ul>			

本人支援	認知・行動	< ねらい >	認知の発達と行動の習得をめざす。空間・時間・数などの概念形成を習得する。対象や外部環境の適切な行動を習得する
		感覚や認知の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚、聴覚、触覚との感覚を十分活用して、必要な情報を収集し認知機能の発達を促すため製作活動（絵画・積み木等）や運動あそび（トランポリンや巧技台使用など）を活動に取り入れて行う。</li> <li>・設定活動（リズムあそび・製作・小麦粉粘土・運動あそび など）を実施</li> <li>・個人の感覚や認知の得手不得手を確認する</li> </ul>
		知覚から行動への認知過程の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境から情報を取得し、必要なメッセージを選択し行動につなげていく、その一連の認知過程を適切に評価し、子どもの特性に合った環境調整ならびに関わり方に関する支援を実施する。</li> <li>・言語訓練や個別面談等を実施し情報を収集</li> <li>・あそびの中で言葉と視覚や聴覚等からの情報を合わせた体験の実施</li> </ul>
		認知や行動の手がかりとなる概念の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間などの概念の形成を図ることによって、それを認知や行動のてがかりとして活用していく。</li> <li>・言語訓練を実施に確認していく（認知教材使用）</li> <li>・様々な設定活動を体験し、個人の得手不得手を確認する</li> <li>・得意な感覚を手がかりに活動する体験の実施</li> </ul>
		数量、大小、色などの習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の場面での活動（食事・衣服の着脱など）を通して、子どもの発達段階の応じた数量、形の大きさ、重さ、色の違いなどの習得のための具体的な働きかけを日常生活の中で実施する。</li> <li>・場面に応じて声をかけていく</li> <li>・食事・排泄・衣服の着脱など、本人の取り組みやすい部分から実施繰り返し実施</li> </ul>
		認知の偏りへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏りなどの個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。</li> <li>・様々な活動を体験する</li> <li>・食事の時間を楽しみながら、食への興味につなげる</li> <li>・複数の感覚を使用することで、感覚の刺激を軽減するなどの体験</li> </ul>
		行動障がいへの予防及び対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。</li> <li>・事前に環境調整や活動内容を知らせ、見通しがもてるよう配慮する</li> <li>・場面に合わせた過ごし方を伝えながら繰り返し行い、様々な環境で過ごす体験を実施</li> </ul>
本人支援	言語コミュニケーション	< ねらい >	言語の形成と活用。言語の受容及び表出。コミュニケーションの基礎的能力の向上及びコミュニケーション手段の選択と活用。
		言語の形成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事物や体験と言葉の意味を結び付けるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。</li> <li>・言語訓練を実施</li> <li>・様々な活動に参加し、興味関心を広げ言葉に繋げる</li> <li>・あそびの中で声や体を動かして表現する体験の実施</li> </ul>
		受容言語と表出言語の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階に応じた話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。</li> <li>・言語訓練を実施</li> <li>・ジェスチャーや絵カードを使用し、相手に伝わる楽しさに繋げる</li> </ul>
		人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に配慮された場面における人との相互作用を通じて、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。</li> <li>・集団での活動（集まり・給食・設定活動等）を実施し、コミュニケーションの向上に繋げる</li> <li>・ごっこあそびやスキンシップあそびなどやりとりを行うあそびの実施</li> </ul>
		指さし・身振り・サイン等の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階に対応するコミュニケーション手段を選定し、環境の理解と意思の伝達ができる機会を積み重ねていけるように環境及び関わり方の調整を実施していく。</li> <li>・園生活及び設定活動の中で、その手段が子どもに合っているのか把握していきながら活用していく</li> <li>・手あそびなど模倣するあそびなどを通してジェスチャーなどにつなげていく</li> </ul>
		読み書き能力の向上のための支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の子どもなど、障がいの特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。</li> <li>・絵本の読み聞かせ等で、文字への興味につなげていく。</li> <li>・年齢別活動において、文字を書く事への準備（鉛筆の持ち方や姿勢保持・手指の巧緻性等）を行う。</li> </ul>
		コミュニケーション機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の文字・記号・絵カード・機器等のコミュニケーション手段を適切に選択し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。</li> <li>・言語訓練を実施</li> <li>・ジェスチャーや絵カードを使用し、相手に伝わる楽しさに繋げる</li> </ul>
		手話・点字・音声・文字等のコミュニケーション手段の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話・点字・音声・文字・触覚・平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。</li> <li>・言語訓練を実施</li> <li>・集団での活動（集まり・給食・設定活動等）を実施し、コミュニケーションの向上や伝達方法を覚える</li> </ul>

本人支援	人間関係・社会性	< ねらい >	他者との関わり（人間関係）の形成していく。自己の理解と行動の調整を行う。仲間づくりと集団への参加。	
		アタッチメント（愛着行動）の形成	・人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を実践していく。	・園生活やあそびを通して、職員との関係を形成する
		模倣行動の支援	・あそび等と通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを促していく環境調整並びに関りを実践していく。	・手あそびやスキンシップあそびなど、人とふれあうあそびを取り入れ、興味につなげていく。
		感覚運動あそびから象徴あそびへの支援	・子どもの発達段階に応じた感覚機能を使ったあそびや運動機能を働かせるあそびの環境を整え、次の発達段階として見立てあそびやつもりあそび、ごっこ遊びなどの象徴あそびへ促すための関わり方を提案し支援者が実践していく中で、徐々に社会性の発達を支援する。	・感触あそびや感覚統合あそびなどを実施し、みたてあそび等の象徴あそびへ繋げていく。
		一人あそびからの協同あそびへの支援	・周囲に子どもがいても無関心である一人あそびの状態から並行あそび、大人が介入して行う連合的なあそび、役割分担したりルールを守ってあそぶ協同あそびといったスモールステップでのあそびの育ちを促し社会性の発達を支援する。	・子どもの興味関心のあるあそびを認めながら、大人と一緒にそのあそびを行うことで、人と関わる事の楽しさに繋げていく。 ・子どもの興味に合わせて2、3人など少人数から誘いながら、楽しさや同じものであそぶなど共有する体験につなげていく。
		自己の理解とコントロールのための支援	・大人を介在して自分のできる事、できない事など、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるようになるための支援を実践していく。	・あそびや集団での行動の中で、ルールや約束事などを知り、コントロールできる力をつけていく。 ・気持ちを汲み取りながら、声のかけ方などを具体的に伝えていく。また、ごっこあそびなどを通して体験していく。
		集団への参加への支援	・子どもの発達段階に応じた環境調整並びに関わり方の提案を行い、子ども自らが自発的に集団に参加し手順やルールを理解し、あそびや集団活動に参加できるよう支援していく。	・無理に参加させず、楽しんで参加している友だちの姿や活動への興味に繋げていく。 ・事前に手順やルールをわかりやすく伝えながら、本人の興味に合わせて誘いながら参加のきっかけを作っていく。
家族支援	< ねらい >	家族からの相談に対する適切な助言や愛着行動等への支援を行う。 家庭での子育て環境の整備を行う。 関係機関との連携による支援を行う。		
	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が安心して子育てを行うことができるよう、家族の負担を軽減していくための物理的及び心理的支援を行う。</li> <li>・母親だけでなく父親や兄弟姉妹、また祖父母など家族全体を支援していく。</li> <li>・子どもの特性等の理解前として、「気づき」の支援も重要であり、個別的に配慮して行っていく。</li> <li>・ネグレクトを含む虐待の疑いや心理カウンセリングに必要性など専門的な支援が必要な場合は、適切に対応を行う。</li> <li>・必要に応じて、相談支援事業所や児童相談所、医療機関、行政等と緊密な連携を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の連絡帳等で日々の様子を伝えていく。また年に2回の個別面談を実施する。</li> <li>・参観日等を実施し、子どもの様子観察や支援の様子観察などを設けていき、関わり方や支援方法を伝え、心理的な軽減を図っていく。また、保護者交流の場を設け、家庭での過ごし方やきょうだいとの関わり方など知る機会につなげていく。</li> <li>・状況に合わせて、個別相談の実施</li> <li>・通園バスの添乗職員から送迎時の家族の様子の聞くなどしながら、家族の状態の把握に努める。</li> <li>・モニタリングや関係機関との話し合い等に参加を促し、他機関との関係が築く機会を設けていく。</li> </ul>	
移行支援	< ねらい >	保育園等への移行を支援する。保育園等と併行通園している場合における併行通園先との連携を実施する。 同年代の子どもをはじめとした地域における仲間づくりを支援する。		
	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な移行や将来的な移行を見据えた子どもの発達評価や支援を実施していく。</li> <li>・具体的な移行先との調整や支援方針・支援内容の共有や子どもの状態・親の意向・支援方法について伝達していく。</li> <li>・家族への情報提供や移行先の見学を推奨・調整を行う。</li> <li>・移行先の体制づくりへの協力や相談援助を実施する。また、子どもの状態や支援内容の共有（得手不得手や声かけのタイミング・コミュニケーション手段 等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントから家族の意向の聞き取りを行い、支援計画を作成していく。</li> <li>・保育園等から移行や併行通園をしている場合は、お互いの園での子どもの様子を把握できるよう連携を継続していく。</li> <li>・就学までの流れやスケジュールなどについて話をする機会を設ける。</li> </ul> 移行先への引継ぎ（引継ぎ書や様子観察）、集団によって必要となる支援を行いながら、本人の力を高めていく。	
地域支援・地域連携	< ねらい >	通所する子どもに関わる地域の関係者や関係機関と連携した支援を行う。		
	地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが通う園や就学予定の学校・放課後児童クラブ・放課後等デイサービスなどとの情報連携や支援方法・環境調整などに関する相談援助</li> <li>・支援計画の作成・見直しに関する会議の開催を行う。</li> <li>・子どもが利用している様々な機関と連携していく（発達障害者支援センター・医療的ケア児支援センター・障害児相談支援事業所など）</li> <li>・虐待が疑われる場合は、児童相談所やこども家庭センター（自治体行政）との情報連携を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連絡等を行い、必要に応じて会議等を開催していく。</li> <li>・園外保育等で利用する施設に対して協力して欲しいことなどを知らせながら、地域で子育てを行いやすい環境づくりにつなげていく。</li> </ul> 療育等支援事業で、施設を訪問して関わり等の相談支援（職員支援）やことばの教室など地域での相談（訪問療育）を実施。また、一時的に利用を行う地域生活支援事業の日中一時支援事業も実施している。	

<p>職員の質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所評価や保護者評価を実施し、支援の質を向上に繋げる</li> <li>・特性に応じた支援方法の研修を実施</li> <li>・外部の研修会や勉強会などに参加し、内部研修においてスキルアップ・ブラッシュアップを行い自己研鑽を図る</li> <li>・権利擁護、虐待防止、身体拘束防止研修</li> </ul>	<p>主な行事等</p>	<p>(年間行事)  始園式・親子遠足(年2回)・家庭訪問・お泊り保育・夏まつり 運動会・総合消防訓練・クリスマス会・もちつき・卒園式・内科健診・歯科検診(年2回)・個別面談(年2回)</p> <p>(月行事)  参観日・園外保育・誕生会・身体計測・避難訓練</p>
----------------	---	--------------	---